



きざき

題字：寺尾 貞男 氏（笹山）

令和 5 年 5 月 3 1 日

令和 5 年度 第 2 号

6 年生は優しいよ！

校長 島津弘次

ある日の昼休みの光景です。

さくら 2 組をのぞいてみると交流学級からも大勢の子どもたちが遊びに来ていました。支援員や担任が見守る中、カードゲームやビーチボールなどで楽しそうに遊んでいます。私が教室に入ると「校長先生も一緒にやりませんか？」と 6 年生の Y さんが誘ってくれました。Y さんの誘いに乗り、私も一緒にビーチボールを使ったバレーに参加させてもらいました。Y さんと 2 年生の S さんが同じチームで、私と 5 年生の O さんが一緒のチームです。Y さんは、S さんにやり方やコツを教えます。

「手のひらを上のほうに向けてね…」

「ボールは前に打つんじゃなくてね、上のほうに打つといいよ…」

「今のはすごくうまいね…」

「そうそう最高。」

「惜しい、もう少しだったね。」

言葉かけが穏やかで、教え方がとても上手です。何よりも、うまくいったことに注目し、それを取り上げてほめてやり、失敗しても決して責めずに前向きな言葉をかけています。しばらく一緒に遊んだ後、西階段を上がって 3 階に行きました。

ダダダダと廊下を走る足音が近づいてくるのがわかりました。角を曲がって今にも飛び出してきそうなところで「廊下は走らないほうがいいよ」という声が聞こえました。その言い方も大変優しい口調です。角からひょいと顔を出してみると声をかけてくれたのは 3 人組の 6 年生。走っていたのは 2 人の 2 年生でした。

6 年生のこのような言葉掛けは、きっと自身の追体験からきているものなのでしょう。自分が過去に上級生からしてもらった行為やかけられた言葉がこのような姿に結びついているのではないのでしょうか。卒業していった歴代の先輩たちが後輩たちにやさしく言葉をかけたり、手本を示したりしたことが、私がこの日見たことにつながっているのでしょう。

いつ、どのような形で発揮されるかはわかりませんが、後輩たちの身近なロールモデルとして、優しくてカッコいい 6 年生であり続けてほしいと思いました。

令和5年度 木崎小学校の重点目標と取組

「夢を描く力」を育む木崎小学校の教育を推進していくために、「資質・能力&授業力部」「自立&支持的風土部」「健やかな体づくりの推進部」「特別支援教育部」では、次のような活動に取り組んでいきます。

①資質・能力&授業力部

【現状と課題】

○ 昨年度より、「対話」を柱にして「深い学び」をつくる学習に取り組んでいます。「対話」をするためには、自分の考えをもつことと、相手の意見を受け止めることが大切です。日々の学習を通して、自分の考えをもち、友達と対話をしながら学びを深める子どもを目指します。

【重点目標】

- 課題に対して、自分の考えをもつことができる児童を育てる。
- 対話を通して学びを深めることができる児童を育てる。

【目標達成のための手立て】

- 協同して解決できるような課題を提示し、考えることの大切さを感じられるようにしていきます。
- 考えの良いところを称賛し、自信をもって学習に取り組もうとする意欲を育てます。
- 学年の発達段階に応じた「学びのスキル」を各学級に掲示し、友達と協力しながら主体的に学習を進めることができるようにしていきます。
- ペアやグループ等、対話の形態を工夫して学習に取り入れます。



② 自立・支持的風土部

【現状と課題】

- 昨年度、縦割り清掃の反省会で友達の頑張りや良さを発表し、互いに認め合える雰囲気できました。今年度も、さらに自分に自信をもち、友達に思いやりの心をもって接することのできる子どもを目指します。

【重点目標】

- 認め合い、支え合う、温かな雰囲気のある集団をつくる。
- 自己効力感の高い児童を育てる。

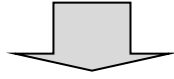
【目標達成のための手立て】

- 全職員で子どもの頑張っているところや良いところを褒め、認め、声掛けを繰り返すことで、子どもに自信をもたせ、自己効力感を育みます。
- 自分や友達の良さや頑なりに気付くために学級で話し合いを行い、各学級の取組を決めて実践します。学級だけでなく、縦割り班、委員会、クラブ等の活動においても頑なを振り返り、認め合える場を設定します。

③ 健やかな体づくりの推進部

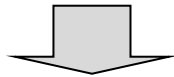
【現状と課題】

- 約 10 年に渡り続けてきた「弁当の日」は、平成 29 年度から全校で実施して、力を入れて取り組んでいます。実施後の児童アンケートでは、86.8%が「食に関する関心、理解が深まった。」と答えています。子どもたちは、弁当作りを通して家族とのコミュニケーションを深め、自分の食事に関心を持つようになってきています。



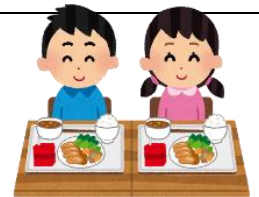
【重点目標】

- 食で、健康・栄養面での理解を深め、主体的に家庭生活に関わろうとする態度を育む。



【目標達成のための手立て】

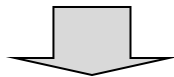
- 「弁当の日」に全校児童で取り組みます。各学年教科を横断して、食に関する学びを深めていきます。
- 自己の成長を実感するために、食と身体、食と地域、食と家庭生活などの食を通じた学びをタブレット等で蓄積していきます。
- 栄養教諭によるランチタイム指導で、望ましい食習慣についての指導を行い、給食の時間を活用して、児童の食育についての意識を向上させます。



④ 特別支援教育部

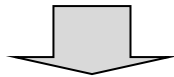
【現状と課題】

- 個々の児童の課題が多様化しています。多様な児童に対応するため、個別の指導計画や教育支援計画を作成し、それを活用していく必要があります。
- 全ての児童が見通しをもち、安心して学習できる教室の環境作りが必要です。



【重点目標】

- 児童同士が互いに理解を深め、多様な個性を尊重する態度を育む。



【目標達成のための手立て】

- 自立と社会参加を目指した個別の指導計画等を作成し、学年部で研修の機会をもち、全職員で情報の共有と評価、見直しを行います。
- 校時表や学習のルールなどのユニバーサル・デザイン掲示物を蓄積し、通常学級でも活用できるようにしていきます。

令和5年度「夢を描く力」を育む 木崎小学校教育ビジョン

<教育目標>

<すじみちを立てて考える子ども><明るく思いやりのある子ども><からだをじょうぶにする子ども>

(重点課題)

意欲的に考える子ども

学力の向上

・「対話で学び深める授業づくり～深い学びにつながる対話的な学びの在り方をさぐる～」を目指した授業づくり。

- ・目的を明らかにした「対話」を位置づけた授業を行い、「学びの深まり」のための「対話」はどうあればよいかを検証する授業公開をする。(全職員・年1回)
- ・学力実態を共有し、「どこで」「どのような」対話的な学習を編成するとよいかについて研修を行う。(年1回)

きまりを守り自他を尊重する子ども

豊かな心

・児童一人一人を多面的に理解し、児童の良さを伝えることで自己肯定感を高めるとともに、児童との信頼関係を築く。

- ・全職員で児童の良いところを積極的に見つけて、声掛けを繰り返す。(随時)
- ・学級のグループや縦割り班での清掃の反省会で、児童同士で互いに頑張っているところ、良かったところを発表し合う。(清掃時)

健康的な生活習慣を身に付ける子ども

健やかな体

・食で、健康・栄養面での理解を深め、主体的に家庭生活に関わろうとする態度を育む。

- ・弁当の日に向けて、各学年教科を横断して、食に関する学びを深めていく。
- ・自己の成長を実感させるために、食と身体、食と地域、食と家庭生活などの食を通じた学びをタブレット等で蓄積していく。
- ・栄養教諭による食にかかわる指導で、望ましい食習慣について指導を行い、給食の時間を活用して、児童の食育についての意識を向上させる。

特別支援教育

自立と社会参加を目指した適切な支援を行うとともに、児童同士が互いの理解を深め、多様な個性を尊重できる環境作りを行う。

- ・自立と社会参加を目指した個別の教育支援計画並びに個別の指導計画を作成し、学年部で研修の機会をもち、全職員で情報の共有と評価、見直しを行う。(学年部全職員合わせて年2回)
- ・道徳などの時間に、特別支援教育部による「思いやり」や「個性尊重」についての出張授業を行う。(年1回以上)
- ・校時表や学習のルールなどのUD掲示物を蓄積し、通常学級でも活用できるようにしていく。(通年)

<支持的風土の醸成>

友達の個性や良いところを理解し、さらに良い人間関係を築き、自他を大切にしながら、温かい木崎小学校の具現を目指す。

- ・「自立を促す生徒指導の推進」を中核エンジンとして、学級・学年・縦割りの様々な活動を通して、校内に支持的風土を醸成する。

<保護者や地域と共に歩む開かれた学校>

◎木崎小中学区のコミュニティ・スクールを生かし、地域と一体となって実践していく。

- ・地域教育コーディネーターを中心に、積極的に地域の人材活用に努め、保護者や地域との協働を進める。
- ・学習支援ボランティアや地域の人材を生かした食育を充実させる。
- ・生活習慣改善に向けた生活リズム、食事、ノーメディア等の強調週間等で家庭との連携を図る。